

- 1 卯月なり影深くして象の皺
- 2 乱心ののちの乱想（らんさう）更衣
- 3 噴水や生前生後死前死後
- 4 梅雨晴や陵ふかく醬壺
- 5 麦藁の敷詰められて尋問室
- 6 交換すパイナップルと爆弾と
- 7 灼熱の海も羅馬に至る道
- 8 髪ばかり洗ふとばかになりますよ
- 9 あつまりて緋目高や傷ひらく色
- 10 星涼し聖母の顔は画家の妻
- 11 めつむりて香水なじむ時間あり
- 12 天瓜粉こぼして氷期まだ知らず
- 13 難問とアイスクリームともにとけ
- 14 氷菓しやぶれ言ふべきことを言へぬとき
- 15 氷水ここがカルデラここが森
- 16 蝙蝠や芝刈られつつ野球場
- 17 月かげはそも日のかげぞわが泳ぐ
- 18 波乗や長髪にして老男子
- 19 昼寝てふ象（かたち）もたざる象（ざう）に乗る
- 20 馬降りて驢馬に乗りつぐ雲の峯
- 21 カウボーイブーツ脱ぎ帰省子や探知機くぐる
- 22 大蛇（かがし）まづ峙（とぐろ）緩めぬ巻きなほす
- 23 象の尻攀ちのぼる蟻わが事か
- 24 鋏形虫我武者羅足搔ピン刺せば
- 25 豆の飯詰込む鶏の腹裂きて
- 26 饅飯の炒飯（チャーハン）になる屋台裏
- 27 好古（よしふる）上戸真之（さねゆき）下戸や夏の暮
- 28 剥きてなほ蕃茄あざやか女の家
- 29 干梅の全顆顛へぬ箆搦めば
- 30 式神の使役手引書虫干す
- 31 猿山に土盛る猿や原爆忌
- 32 恩寵と思ふなり天高きこと
- 33 地の川の歪対称の天の川
- 34 桃食へば睡り深しよ妻も子も
- 35 江戸を出て新宿へ行く桃提げて
- 36 冒頭に戻る音盤盆踊
- 37 いわし雲あの一匹が誤植です
- 38 石の上の水の厚みよ澄みてをり
- 39 霧の奥より声そして声の主
- 40 地下通路くぐりふたたび霧の中
- 41 ひややかに砲塔回るわれに向く
- 42 われに向く月の面（も）いつも死者の顔
- 43 月にあり吾にもあるや蒼き翳
- 44 語るべし月の怪力乱神（くわいりよくらんしん）を
- 45 満月や皆殺されて祀らるる
- 46 鬮引（くじびき）に間引かれし子と間引菜と
- 47 檸檬おく監視カメラの正面に
- 48 声低（こゑびく）の囿や没日煌煌と
- 49 日本語直に亡ぶ林檎に芯残り
- 50 オルフェオの絵画息づく神の留守

- 51 村長（むらをさ）も村を捨てにき麦蒔くも
52 力ある凧のみが海に出づ
53 海豹（あざらし）の毛皮夜な夜な哭くと云ふ
54 聖菓切りをり労働をよく知る手
55 聖菓切る時計回りに十二個に
56 うつくしき洞（うつほ）さがしに冬の旅
57 凍蝶の脚金剛にあらざるなし
58 摩周湖といふ魔鏡あり雪霏霏と
59 雪眼鏡割れて一切雪となる
60 雪いづれ水に還らむわが骨も
61 氷面鏡底ひは地獄かもしれず
62 影武者に影偷（ぬす）まれし日向ぼこ
63 風邪といふ天の賚（たまもの）安息日
64 新首相咳（しはぶ）くたびに井（シャープ）して
65 野良犬の野犬に還る枯山河
66 葱刻むスープ一面蓋ふまで
67 金泥の大き寒雲圧しきぬ
68 海底（かいてい）の鞆のなかの寒の水
69 河豚うすく切りて一口手術前夜
70 首振つて白鳥闇を受容れぬ
71 石垣の隙間を齒朶や闇嚼める
72 殃（まがつひ）の大き無音や去年今年
73 どの神も嗤笑してをり宝舟
74 宝舟船頭をらず常（とは）を海
75 懇ろにウラン運び来宝船
- 76 宝船沈めて渦やうすびかる
77 絵踏して汝の絵踏を見届けぬ
78 つちふるや漂へるもの皆渡来
79 クローンの舌や巨きくあたたかく
80 露の臺肉に包（くる）むや颯（さ）と揚ぐる
81 春の日の箸もて挟むハムの片（ひら）
82 うすらひのうら魚形（うをなり）の紅（こう）うごく
83 熊穴を出づ子が親の背（せな）押して
84 残りたるもの光りそむ苗木市
85 根分して草の童を増やしやる
86 天上も天下も燃えて草餅も
87 啓蟄の蟲や墮天使紛れぬ
88 亀ヶ岡遮光器土偶花待てる
89 崩落の山炮烙の山桜
90 地震（なる）過ぎて滾滾と湧く桜かな
91 書割や豁（たに）の底まで花の雲
92 春眠の女（をみな）に磯のかをり哉
93 墮（おと）されて草摘む女男（めを）となりにつけり
94 草摘みぬ舌を引抜く非情もて
95 草摘めば毒草も摘む瑞々し
96 宗教も科学も古りぬ苜蓿（うまごやし）
97 入学のスカート硬し襞翳る
98 春雷や泡こまやかに羊乳酒
99 シルクハットからしやぼん玉人間大
100 しやぼん玉水面にとまる円きまま